研究実践校紹介

表現力を高める授業の創造

═══ 国語科を窓口として ═══

福島市立大森小学校

はじめに

本校では，昭和55年～56年度，福島市教育委員会から表現教科の研究指定を受け，昨年11月に研究公開を実施した。今年度は，文章表現力の向上をめざして，その継続研究に取り組んでいる。

1　研究主題

「表現力を高める授業の創造」(国語科を窓口として)

◇第１年次「国語科表現力の基礎研究」（昭和55年度）

◇第２年次「授業創造への志向」　　（昭和56年度）

◇第３年次「文章表現力の基礎・基本」（昭和57年度）

2　研究の経過と概要

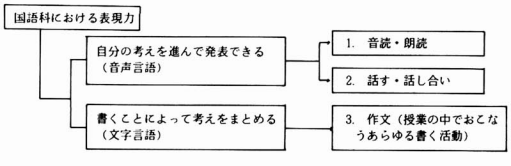
(1)　第１年次の研究（昭和55年度）

①　研究主題が設定された起因と設定理由を明確にした。

②　表現力を高めることの意義と「表現(力)」の概念を規定した。

③　国語科における表現力とは何かの文献研究基礎研究に力を入れた。

ア、「表現」の本質的機能を把握し，研究内容を次の三領域とした。



イ、国語能力と表現能力との関連を次のようにおさえた。（図２参照）

ウ、表現指導の目標を的確にとらえ，学年の到達目標を作成した。（表３参照）

エ、どうすれば表現力を高められるか，研究仮説を設定した。

(ア)　児童は表現したい欲求を持っている。

(イ)　表現の目的・内容・技能の三つの指導を徹底する。

(ウ)　児童の表現活動を学習活動の中心に置く。

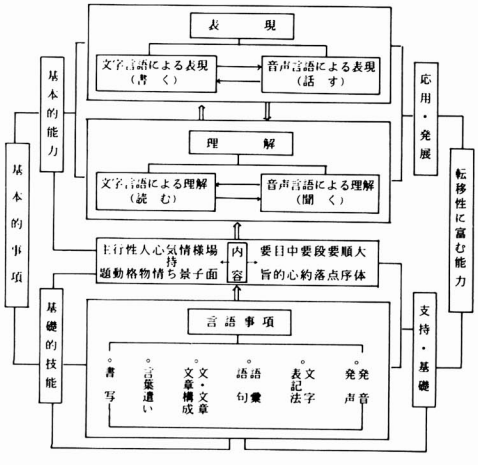
(エ)　表現力向上のための三原則を重視する。

- 実際に数多く表現させること。
- すぐれた作品を賞賛し，鑑賞させること。
- 表現されたもののよしあしの判別の能力をやしなうこと。

(オ)　児童の表現の実態から出発する。

(カ)　表現力評価の根本は，一人一人の児童の自己内評価にある。

〔表現力を頂点においた国語能力の構造〕



年	Ⅰ　朗読することができる。	Ⅱ　話し合うことができる。	Ⅲ　作文することができる。
	はっきりした発音で，ゆっくり読むことができる。 ◦力つよい発音で，音読できる。 ◦文末まで，はっきり発音できる ◦くりかえしや読みちがいがないように読む。	落ちついて筋のある話ができる。 ◦聞かれたことに答えること。 ◦ゆっくり落ちついて話すこと。 ◦話の筋がわかって話すこと。 ◦気持ちよく調子のよい声で話し合うこと。	発問によって読みとったことを文にまとめることができる。 ◦口答作文や文字で書くこと。 ◦正しく速く視写すること。 ◦読みとったことを表や吹き出しやノートにまとめることができ